Your Success, Our Mission.
エクラ通信
No.235/2025/9/1
eclat 税理士法人 エクラコンサルティング
株式会社 エクラコンサルティング
Tel. 03-6866-8800 Fax. 03-6866-8801
URL. http://www.eclat-c.com/

元女性国税専門官からのひとこと～西武グループ研究①～

西武鉄道グループの元オーナー堤義明氏（1934 年 5 月 29 日生まれ）は、日本全国に 4,500 万坪もの土地を所有し、バブル期には時価総額 12 兆円とも言われ、米フォーブス誌では、1987 年から 1994 年まで「世界一の富豪」と称されました。その義明氏も 2004 年に西武鉄道総会屋利益供与事件で引責辞任し、西武グループの堤一族支配が終了しました。

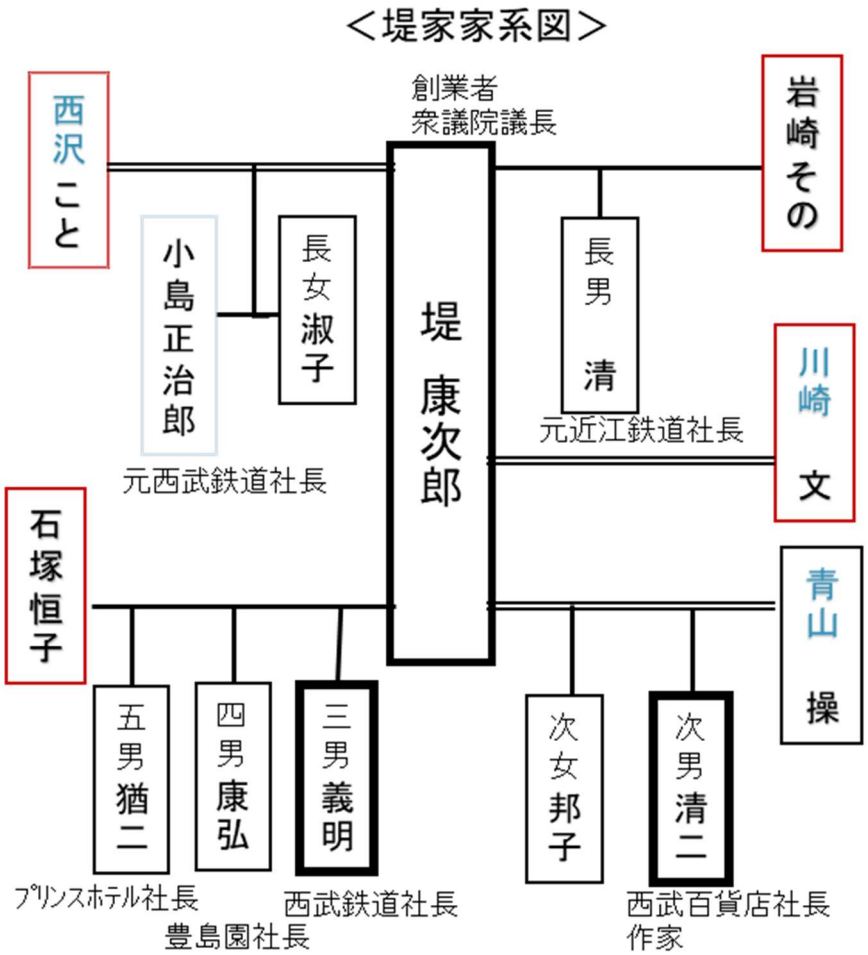
その西武グループの地盤を作った創業者は堤義明氏の父である堤康次郎氏です。 堤康次郎氏は 1889 年に生まれて 1964 年に心筋梗塞で急死するのですが、一介の不動産業者から西武鉄道やプリンスホテル、西武百貨店を代表とした巨大企業グループを一代で築き上げ、政治家としては衆議院議長まで歴任しました。

西武グループは西武鉄道を主軸に、そのターミナルの池袋に西武百貨店を開業し、沿線各駅に西友ストアー、郊外に遊園地の豊島園、西武園を有し、さらに宅地開発もしました。これは阪急グループのビジネスモデルを踏襲しているように見えます。しかし堤康次郎氏のケースは、別荘地・宅地開発が主で、鉄道は後で手に入ったという、不動産開発が主のビジネスモデルでした。

堤康次郎の主な功績をまとめると、

① 武蔵野鉄道、多摩湖鉄道、旧西武鉄道を統合して再編。西武鉄道と宅地開発で東京西部の都市化（国立学園設立を含む）を進めた
② （宮家から屋敷を取得し）プリンスホテルやリゾート開発をして観光産業を育成した
③ 政治家として衆議院議員 13 回当選、拓務政務次官、衆議院議長を歴任

その一方で「土地投機家」「強引な経営者」として批判される面もありましたが、戦後日本の鉄道・観光・不動産の基盤づくりに果たした役割は極めて大きいといえます。



堤家の複雑な家系図

康次郎氏には、2 女 5 男がいますが、長男の清氏（元近江鉄道社長）、次男の清二氏（元西武百貨店社長、作家）、三男の義明氏（元西武鉄道社長）は異母兄弟です。義明氏の生みの親である石塚恒子さんは康次郎氏の正妻ではありません。長男・清氏は、父に逆らい廃嫡され、次男・清二氏もまた、父の生き方に反抗を続けました。その結果、20 歳代だった義明氏が 1964 年の康次郎氏の死を機に、西武グループを継ぐことになるのです。

堤康次郎氏の遺産

堤康次郎氏は、1964 年の相続時に自分の個人名義の資産を一切持たず、全て法人名義にしていたとされています。康次郎氏およびその家族はグループ法人名義の社宅に住み、主要な事業、不動産等の資産は法人名義として、その西武グループ法人の頂点に立つ国土計画興業（後の国土計画→コクド）の支配権、つまり株式はどのように管理されていたのでしょうか？これも他人名義、すなわち名義株式だったと思われます。

次男の堤清二氏は辻井喬というペンネームを持つ著名な作家でしたが、晩年その回顧録「叙情と闘争」の中で、「親族の調査で、相続税対策は徹底していて、... 主なものは株式ですが全部他人名義になっていて... 持ち株会社でもあった国土計画興業の 15%の株は堤康次郎のものであったが、学校法人に寄付してしまえば税の対象にならない。」とわかったと述べています。

また堤清二×辻井喬オーラルヒストリー「わが記憶、わが記録」の中でも、「親父は個人財産がまるでなし。すべて会社のものにしていて、自分は無一文のような状況でした。税金を払うまいという情熱がすごかったのです。」と述べていますが、相続税ゼロでは世の中で通るまいと思ったそうです。そこで当時の池田勇人首相を清二氏が訪ねて「遺産相続がゼロになる」というと、「それではまずい」という話になり、首相に紹介された国税ＯＢの税理士と相談して 1 億円以上の個人財産を作ったと回顧しています。

康次郎氏の名義株については、五男の堤猶二氏も、「国土計画興業の株式は、康次郎氏本人が約 36%を持ち、残りは信用できる役員や従業員の名義を借りていた」とも述べています。(2023 年 6 月 27 日の日経電子版)

後に堤家支配体制の崩壊の引き金となるコクドの株式の名義株問題は、康次郎氏の時代から継続されていたようです。これから 4 回にわたり、堤家の西武グループの歴史を、税務面を中心に考察したいと思います。